

第3回 川崎宿～東神奈川間

多摩川を渡った所から川崎宿である。そこに田中本陣跡がある。田中休愚が八代将軍吉宗から六郷渡しを経営権を譲渡され川崎宿の財政再建を果たしたという。

川崎駅前の商店街いさご通りが旧東海道なのだが、商店街の中に佐藤本陣跡の掲示はあるが他に何も残っていない。

川崎の宿場を離れると八丁畷、当時は松並木があったというまっすぐの畦道がある。この



鶴見川橋



関門跡

辺りで初めて旧東海道の雰囲気を感じながら鶴見川まで歩いた。

ここには家康が東海道を整備した頃に架けられた江戸から初めての橋（鶴見川橋）があったという。橋を渡った所に安政年間の横浜開港に伴って不審者侵入を取り締まった関門跡があった。

鶴見駅先からは生麦魚河岸通りが旧東海道である。この通り中ごろに生麦事件発生現場があった。

生麦駅付近から国道十五号線に合流道し東神奈川まで歩く。

第三回は町はずれの東海道の雰囲気を味わうことが出来た区間だった。

旧道を きちんと生かし 宿繋ぐ



生麦事件
発生現場

第4回 東神奈川～保土ヶ谷間

京急の神奈川新町駅付近の長延寺（オランダ領事館跡）から神奈川駅・青木橋を経て台町付近までが神奈川宿である。

神奈川宿の滝ノ橋あたりが中心地で神奈川本陣、青木本陣があった。この宿には金蔵院、熊野神社、成仏寺、慶雲寺、浄瀧寺、宗興寺、洲崎神社、普門寺、本覚寺金刀比羅神社等寺社が多い、この寺社は開港時外国対応に一役買っていた。

成仏寺はヘボン博士の宿舎、慶雲寺はフランス領事館、浄瀧寺はイギリス領事館、宗興寺はヘボン博士の診療所、普門寺はイギリス士官の宿舎、本覚寺はアメリカの領事館、と各寺の掲示から判った。



この宿場にも神奈川台場跡があった。

青木橋から旧東海道は急な上り坂である。この付近を広重は五十三次の神奈川宿に描いている。急坂の途中の旅籠さくら屋があるが、現在の老舗料亭田中屋である。

海岸側は急な崖で崖下に神奈川湊があった。現在の地形からも容易に推測できた。



帷子橋跡

天王町あたりに帷子橋跡の記念碑がある。広重の保土ヶ谷の画はこのあたりが描かれている。現在は帷子川が改修され流路が変わり川の流れはない。



この回の神奈川宿には寺社が多く、開港時に英米仏の領事館等に寄与したことが印象に残った。

次の戸塚の宿場までは単調な街道だったことが窺い知れた。

神奈川宿 社寺訪ねて 歩き行く

第5回 保土ヶ谷～戸塚間

保土ヶ谷の駅を過ぎたところが保土ヶ谷宿の中心部で軽部本陣跡、脇本陣跡、茶屋本陣跡が続く、保土ヶ谷宿上方見附跡、復元された江戸から八里目の一里塚跡がある。



一里塚跡



権太坂

暫く行くと権太坂がある。箱根駅伝が走る国道一号線ではなく北側の急坂路が旧東海道の権太坂である。

権太坂 駅伝よりも 坂險し

この権太坂という名は、諸説あるが、旅人が老人に坂の名前を聞いたところ、老人は自分の名前を聞かれたと思い「権太です」と答えたのが由来とか。

歩いて知る面白さを感じた。

権太坂を上った所が武蔵国と相模国の国境で境木と呼ばれ、立場があり数件の茶屋があり賑わったようである。

ここから戸塚に向けて焼餅坂がある、権太坂・焼餅坂は日本橋を出て最初の難関であったようだ。

坂の途中に道の両側に神奈川県内で唯一、ほぼ当時の形で残っている品濃一里塚がある。



品濃一里塚跡



東戸塚付近の信濃坂を下ったところで道が途切れたかと思ったら環状二号線を渡る海道橋があった。この橋で旧東海道は辛うじて繋がれていた。その後国道一号線に合流し不動坂から再び旧道を歩き戸塚宿の吉田大橋へ。ここが広重の五十三次

の戸塚の画材になった所である。

昔人は「お江戸日本橋七つ立ち（午前四時頃）」して戸塚まで一日で歩いたという。なんて健脚の事かと感心した。

戸塚宿 一日旅程 賑わえり



第6回 戸塚～藤沢間

戸塚駅すぐ側に家康の側室・お万の方が開基した清源院がある。

戸塚駅から西側が戸塚宿の中心で、内田本陣跡、脇本陣跡、澤邊本陣跡、高札場跡、あり。

上方見附跡の掲示があるところから大坂、大坂を登り詰めた所にお軽・勘平戸塚山道行碑がある。この辺りは当時松の多い山道だった。



ここから国道一号線に合流藤沢バイパス分岐まで行き旧道の遊行坂を下った右側に時宗総本山遊行寺がある。

遊行寺先の大鋸橋を渡った先のT字路あり、左江の島、右東海道である。広重の五十三次の藤沢はこの辺りを描いている



第7回 藤沢～茅ヶ崎間



遊行寺から西側が藤沢宿である。ここには藤沢御殿跡（家康が上洛時に使用する目的で築いた御殿、秀忠、家光も利用した）、蒔田本陣跡や脇本陣跡、義経首洗い井戸、白旗神社（義経の首を合祀されて社名を白旗にしたとされる）がある。

途中十三里目の辻堂一里塚のところに東海道から大山道に分岐する四谷の追分に建てられた大山道標あり。当時大山詣でも盛んであったと思われる。茅ヶ崎高校脇街道は立派な松並木（推定樹齢四百年）が残っている。



旧道の 雰囲気残す 松並木

第8回 茅ヶ崎～大磯間

茅ヶ崎は松並木が断続的につながっている。宿場から宿場の間の宿で茶屋が立ち並び賑やかな町であったようだ。

ここには富士が右手に見える場所に南湖の左富士の碑がある。東海道の中では南湖と吉原だけである。

江戸時代馬入川は舟渡だった。川を渡ると間もなく平塚宿である。現在の平塚商店街そのものが旧東海道で今も賑やかな街並みであるが脇本陣跡、本陣跡、東西問屋場跡の碑があるのみである。



花水川の手前に京方見附跡があるがここから広重は平塚として高麗山方面を描いた絵がある。



大磯手前に化粧坂があるが仇討ちで有名な曾我兄弟の兄の十郎祐成の

恋人であった白拍子・虎御前が化粧した化粧井戸がある。

この辺りに大磯の江戸方見附跡がある。この景色を広重は五十三次大磯として描いている。



第9回 大磯～国府津間

大磯宿には延台寺（虎御前が曾我兄弟を偲んで庵を結んだ跡）があり虎御石が安置されている。

大磯宿も小島本陣跡、尾上本陣跡、石井本陣跡が石碑や標識で示されていた。



上方見附近くに京都の落柿舎、義仲寺の無名庵と並ぶ三大俳諧道場の一つである鳴立庵がある。今も俳句会が催されている。

大磯宿を過ぎると高さ20から30mの松並木（樹齢約三百年）が続く、家康が街道筋を整備した当時の松並木だという。この松並木の海岸側に伊藤博文旧邸滄浪閣、旧山内邸、旧徳川邸、旧山県邸、旧沖邸、旧大隈邸、旧西園寺邸、旧池田邸、旧吉田邸と並ぶ旧別荘地帯である。その後等覚院の樹齢四百年の古い藤（必見）を愛で国府津に至る。



松並木 昔は駕籠で 今車

第10回 国府津～小田原間

国府津には菅原道真公を祀る菅原神社（樹齢八百年以上とムクノキ）あり。

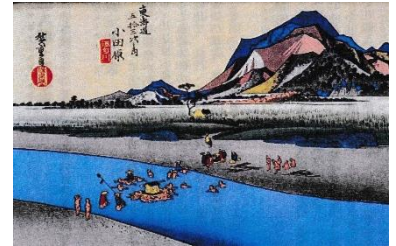
街道沿いには江戸時代の後期建築重厚な長屋門の屋敷、網元川辺家がある。



網元川辺家

その先に酒匂川徒渡し場、ここで二宮金次郎が表彰されたとの碑あり、出世のきっかけとなった所である。

ここから広重は小田原として川を挟んで奥に小田原宿の家並を描いているが、実際にはうっすらと山々が見える程度である。



酒匂川を渡ったところに新田神社、新田義貞公の首塚あり。

その先が小田原宿である。

旧東海道は小田原の新宿交差点から左折・すぐ右折してかまぼこ通りを辿る。清水金左衛門本陣跡、片岡本陣跡までで次回へ

旧道は海、松、砂と富士の山

第11回 小田原～箱根湯本間

今回は小田原城の記述は割愛する。

小田原の 基盤造りし 北条家



小田原城

右手に小田原城を見ながら小田原宿の久保田本陣跡、清水彦十郎本陣跡を辿る。

早川口あたりまでが小田原宿であった。

このあたりに小田原初代城主の大久保忠世が開基した大久保家の菩提寺大久寺がある。



大久寺



長興山紹太寺

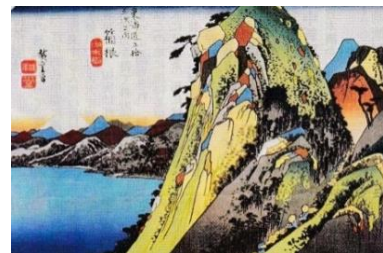
早川沿いに進み入生田付近に小田原城主だった稲葉氏の菩提寺、長興山紹太寺がある。ここには樹齢三百三十年以上のシダレザクラがある。

先には戊辰戦争の時に幕府遊撃隊と官軍が交戦した山崎古戦場跡があり、左手の山に秀吉が小田原城攻めの時に築城した石垣山一夜城跡あり。

箱根湯本手前の三枚橋を左折し渡るこの通りが旧東海道である。いよいよ石畳の旧道を辿ることになる。

第12回 箱根湯本～箱根関所間

三枚橋から箱根峠までが東坂（四里八町）、箱根峠から三島までが西坂（三里二十八町）合計八里を箱根八里と呼んでいる。東坂は標高差七百M、平均斜度二十度最大傾斜は四十度という東海道随一の難所だった。



東坂は三枚橋から須雲川沿いに上り畑宿を経て二子山の南麓を通り元箱根に至るが現在は自動車道で寸断されて石畳と急な階段で繋いで残されている。

箱根湯本には早雲寺、北条早雲以下五代の墓がある。坂の途中には正眼寺（曾我兄弟供養塔や曾我堂）がある。その先に右に入ると旧東海道の石畳の道がありこれが湖畔まで所々保存整備されていて往時が偲ばれる。途中、長い急な坂道



が続く難所の一つ女転し坂、割石坂等畑宿まで続く。さらに檀木坂、追込坂、甘酒茶屋まで旧街道の石畳が続いて元箱根に至る。



湖畔には立派な杉並木が残り箱根関所跡にと続く。復元された箱根関所跡が今回のゴール足元だけを見て夢中で登った大変な難所であった。



小雨降る 箱根路越えは いと險し

第13回 箱根関所跡～三島大社間



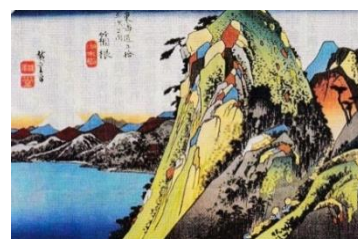
箱根路編の最終回、関所跡から約五百M先から右折し石畳、杉並木の旧箱根街道に入り箱根峠まで約百m登る。その間挟石坂、釜石坂、向坂、赤石坂を経て頂上の箱根峠へ、箱根峠の国道右の山道が旧東海道である。途中獣道のようなところも



ある。中頃に山中城跡がある。北条氏康が築城した山城、障子堀、畝堀が残っている。

現在は山中城址公園として整備されている。

その先からこわめし坂、題目坂、臼転坂等急坂路が続く、この辺りを広重は箱根図に描いている。



初音が原から錦田の一里塚まで松並木が約1km続く、この辺りは富士も綺麗に見える。下りの長丁場（約20km）を歩いて遂に箱根路の終点三島大社に到着した。

箱根路の 長き西坂 富士愛でる

以上箱根路の道中概要でした。（写真集を見ながら道中紹介を読んでもいただくことが出来ないのが残念です。）

まとめ

この箱根路は馴染みのある都市間の旧道を歩く珍しさもあり楽しみながら歩けた。

当初歩くことに不安があったが歩く距離にも少しずつ慣れてきたし、大雨の中、雨合羽のみで歩く経験もして東海道歩きに臨機応変に対応出来るようになってきた。また、旅仲間もでき、皆で東海道の完歩を目標に、まずは次の駿河路に挑戦することにした次第である。

次回は駿河・遠江路編を紹介します。

東海道を歩いてみて

東海道歩きに関心のある人まずは箱根峠まで歩いてみてください。箱根峠を越えられれば歩くことの不安はありません。あとは根気があれば完歩できます。ぜひ歩いてみてください。チャレンジしてみてください。また新しい世界が見えてきます。

箱根路（日本橋～三島大社） 記 録

期間	2016/9～2017/5	延日数	13日
東海道五十三次	約114km	実歩行距離	約196km
歩行歩数	約26万歩	撮影写真枚数	1,853枚
纏めたPPT	540ページ	製本ページ	270ページ